

平成27年度「学校評価」総括表

徳島県立海部高等学校

○学校経営基本方針

徳島県教育基本目標に従い、一人一人の人権を尊重し、豊かな心と確かな学力を持ち、社会の変化に主体的に対応できる実践力のある調和のとれた人間を育成する。

○本年度重点課題

1. 学力向上の推進及び進路指導の充実
2. 生徒指導の徹底 及び 保健安全・環境教育の充実
3. 特別活動及び海部寮の充実
4. 人権教育の充実
5. 特別支援教育・教育相談の充実
6. 開かれた学校づくり
7. 危機管理体制の充実

基本的なコンセプト

校訓「絆」「学」「夢」を大切にしたい人づくり

- 「絆」→心のふれあいを大切にして、豊かな人間性を育てる。
- 「学」→多様な個性と能力を伸ばし、生きる力を育む。
- 「夢」→夢を持ち、自己実現に向けて努力する人間を育てる。

○総括評価表（「総合評価」における評定の基準…A:十分達成できた, B:概ね達成できた, C:達成できなかった 自己評価のデータ(数字)は12月に実施した学校評価・授業評価アンケート等による)

重点課題	重点目標	評価指標と活動計画	自己評価	学校関係者の意見・評価	次年度への課題と改善方策	
1 学力向上の推進及び進路指導の充実	①分かる授業、興味を持ち学ぶことが楽しい授業の実施	評価指標 ①生徒による授業評価アンケート→年1回 授業に対する生徒の満足度 (生徒による授業評価アンケート)→85%以上 教員による公開授業週間→年2回 学力向上委員会→年5回	評価指標の達成度 ①生徒による授業評価アンケート→1回(12月) 授業に対する生徒の満足度 (生徒による授業評価アンケート)→89%【平成26年度88%】 教員による公開授業週間→1回(10月) 学力向上委員会→5回	総合評価 (評定) B (所見) ①～⑥家庭学習の習慣化が本校生徒の大きな課題である。進路実現に必要な学力を身に付けるために家庭学習の必要性を強く意識させていきたい。また、保護者の進路意識の高揚を図るのがもうひとつの課題である。	①全教職員による学校評価についての共通理解を進める必要がある。 ①指導と評価の一体化を意識した授業実践を行うために、各課・各教科会の充実が望まれる。 ②実態を考えると、数値目標を再考する必要がある。 ③授業の実施率については、現在の評価制度で問題はない。 ④家庭学習時間の数値目標について推移目標を立てる必要がある。 ⑤校内テストについては、早い時期からの学習を徹底させ、得点率の向上を図る。	①全ての教職員に「海部高校:『学力・学習状況』改善プラン」を周知徹底する。 ①各教科会を定期的に関き、PDCAサイクルに基づいた見直し・改善に努める。 ②貸出が人気本に集中しているため複数購入をする。 ③さらなる、行事の精選や学期末の日程の工夫をととして、授業時数の確保に努める。 ④学年団との連絡を密にし、平日頃から根気強く、習慣化を働きかける。プリント学習の徹底を図る。 ⑤教科会・学年団との連携を図る。
	②読書活動の推進	②図書室の年間貸し出し冊数→3,500冊以上 図書館だより→年3回, 全校一斉読書会→年1回	②図書室の年間貸し出し冊数→2,642冊(学級文庫を含む。2月末現在) 図書館だより→3回, 全校一斉読書会→1回			
	③授業時数の確保	③授業の実施率→法定授業時数の82%以上	③行事を精選し、授業の確保に努めた。 授業の実施率82.6%(1・2学期間)【平成26年度82.6%】			
	④学習習慣の定着	④平均家庭学習時間2時間以上の者の割合→40%以上 生活実態調査実施→年5回, 週末課題→年20回以上	④2時間以上学習者→43% 生活実態調査→5回, 週末課題→20回以上実施できた。			
	⑤自ら学習する態度の育成	⑤補習出席率→90%以上 校内テスト各教科の平均得点率→50%以上 自主的なプリント学習(国・数・英)提出者→毎日90%以上	⑤補習出席率→90%以上達成できた。 校内テスト各教科平均得点率→49%でほぼ達成できた。 自主的なプリント学習(国・数・英)参加者→毎日80%			
	⑥望ましい職業観や進路意識の育成	⑥進路講演会→年2回以上 企業・大学・短大・専門学校等への視察研修→年2回以上	⑥進路講演会→3回 大学等への視察→5回		⑥保護者対象の進路説明会の出席率については、数値目標の再考が必要	⑥進路への意識を高揚させるため、保護者対象の講演会を開催する。また、

1 学力向上の推進及び進路指導の充実

⑦個人の能力や適性の伸長

⑧きめ細かな進路指導

⑨キャリア教育の充実

⑩進路指導體制の充実

⑪各種検定の受検者数増・合格率の引き上げ

生徒・保護者への進路ガイダンス実施→年2回以上
保護者対象進路説明会→年2回以上・出席率50%以上

⑦進学希望者校外模試全員受験→90%以上

⑧家庭との協力体制を図る。三者面談→年1回以上
進路希望調査→年4回実施、進路検討会→年3回以上

⑨生徒・保護者対象の説明会・講演会→年2回以上
三者面談・個人面談の実施→年3回以上
模擬面接練習→年5回以上

⑩就職指導研修会実施→年6回
就職補習の出席率→90%以上

⑪情報ビジネス科検定(簿記、情報処理、ビジネス文書、商業経済、珠算・電卓)
→2級合格率50%以上、1級合格率25%以上

活動計画

①分かる授業、興味を持ち学ぶことが楽しい授業の実施

①-1教科・科目において、生徒の理解度や授業への興味・関心等について意識の変化を把握し、生徒が主体的かつ積極的に授業に取り組むよう創意工夫する。
①-2授業での小テスト・定期テスト・校内テスト・模試など、テストを生かした指導方法の改善を図る。
①-3公開授業週間を充実し、授業力向上を目指す。

②読書活動の推進

②「みんなでやる。毎日やる。好きな本でいい。ただ読むだけ。」をモットーに朝の読書の充実を図る。

生徒・保護者への進路ガイダンス→2回
保護者対象進路説明会→2回
保護者対象進路説明会出席率→20%にとどまり、目標数値を達成できなかった。

⑦進学希望者校外模試全員受験→80%

⑧三者面談→多い生徒で5回、少ない生徒で2回
進路希望調査→5回、進路検討会→5回

⑨生徒・保護者対象の説明会・講演会→2回
三者面談・個別面談の実施→3回以上
模擬面接練習→5回以上

⑩就職指導研修会実施→6回
就職補習の出席率→92.5%

⑪情報ビジネス科検定合格率
簿記 2級→100%・1級→32.1%
情報処理 2級→45.8%・1級→25.0%
ビジネス文書 2級→50.0%・1級→30.0%
商業経済 2級→50.0%・1級→66.6%
珠算・電卓 2級→88.8%・1級→70.3%

評価指標の実施状況

①教科・科目において、授業評価アンケートを実施し、生徒の理解度や授業への興味・関心等について把握し、生徒が主体的かつ積極的に授業に取り組むよう工夫した。公開授業週間を10月に設定し、授業力向上を目指した。

②学級文庫を設置するなどして、朝の読書の充実を図った。

(所見)

⑦ほぼ達成できた。

⑧達成できた。

⑨達成することができた。模擬面接では多くの先生方に協力いただき、充実した面接練習ができた。

⑩達成できた。補習においては、早朝補習・放課後補習ともに積極的に参加していた。

⑪ほぼ達成できた。検定内容や受験方法が改訂された。これにより、目標設定の指標を変更すべきである。

(所見)

①授業アンケートを実施することにより、生徒の授業の取り組み状況や家庭学習状況についても把握することができた。

②各クラス、落ち着いた取り組みで取り組んでいた。

要である。

⑨求人数は増加傾向であるが、各企業の採用基準は厳しくなっている。適性等を十分考慮し、慎重な進路決定をさせていくべきである。

⑩3年次では意識ある行動ができているが、もう少し早い段階から、意識させるべきである。職業に対する興味を持たせる工夫も必要である。

⑪各検定の難易度が高くなってきている。1年次より情報関連の検定を2級まで受検させたことにより、1級の取得率が高くなってきた。

①授業アンケートの結果やデータの生かし方についてはさらに工夫が必要である。

②読みたい本を用意するよう繰り返し呼びかける。

定期的に進路情報を発信する。

⑦全員受験の徹底化と受験後の見直しを徹底させる。

⑧進路検討会については、会議の効果的な在り方を検討したい。

⑨求人数の増加に伴い、進路情報の適切な処理(過去の就職実績との照合)が求められる。生徒保護者が進路決定において判断しやすく、意識が高まるような情報を提供していきたい。

⑩低学年より、進路意識を高める指導に取り組みたい。自己管理・自己分析、コミュニケーション能力、礼儀作法等についての指導も強化していきたい。

⑪授業に関連する各種検定の学習指導計画の見直しと補習体制の合理化を検討していきたい。

①授業評価アンケート・公開授業週間の充実を図る。

②朝読の時間を継続する。

1 学力向上の推進及び進路指導の充実	<p>③授業時数の確保</p> <p>④学習習慣の定着</p> <p>⑤自ら学習する態度の育成</p> <p>⑥望ましい職業観や進路意識の育成</p> <p>⑦個人の能力や適性の伸長</p> <p>⑧きめ細かな進路指導</p> <p>⑨キャリア教育の充実</p> <p>⑩進路指導体制の充実</p> <p>⑪各種検定の受検者数・合格率を上げる</p>	<p>③行事の精選や学期末の日程の工夫をととして、授業時数の確保に努める。</p> <p>④全ての生徒の学習習慣の定着を図るために、きめ細かな目標や課題の設定などの指導助言を行う。5教科で週末課題を実施し、課題の工夫と実施の徹底を図る。</p> <p>⑤-1普通科・情報ビジネス科の生徒に補習の積極的・継続的な参加を、根気強く呼びかける。個人面談で学習の必要性を説得していく。 ⑤-2校内テストの難易度を考慮し、多様な生徒に対応した作問について各教科で検討し実施する。また、校内テストの出題範囲を明示して、計画的な学習に取り組ませる。 ⑤-3プリントの中身について、難易度に考慮し、モチベーションを高め継続する内容となるよう工夫する。</p> <p>⑥進路説明会への保護者の出席率を上げるため、早くから広報活動に取り組み、説明会が意義あるものとなるよう工夫する。</p> <p>⑦進学希望者に、校外模試を受験することの意義を根気強く伝えていく。</p> <p>⑧家庭との協力体制をつくる。</p> <p>⑨PTA総会や説明会の際などに保護者との就職相談を実施する。進路情報(就職先・求人数等)を充実させる。</p> <p>⑩就職指導について担任との連携を強化する。就職指導室の情報提供機能を充実させる。就職補習を充実させる。就職試験対策を強化する。</p> <p>⑪能力に応じた各種検定を積極的に受検させ、合格できるよう支援する。きめ細かな面談指導等を実施する。</p>	<p>③行事の精選や学期末の日程の工夫をととして、授業時数の確保に努めた。</p> <p>④英・数・国を中心に週末課題を実施し、課題提出の徹底を図った。</p> <p>⑤定期考査や校内テストに向けての学習を促すために、生徒昇降口に看板を設置し、意識の高揚を図った。自分の分からない部分をなくそうとして積極的に質問に来る者もいるが、質問に来る者は限られている。質問に来る人数を増やす工夫をしたい。</p> <p>⑥進路説明会への保護者の出席率を上げるために、早くから広報活動を行うとともに、進学・就職状況の説明なども取り入れ工夫をこらした。</p> <p>⑦校外模試の必要性を継続し生徒に働きかけた。</p> <p>⑧面談などを通じて家庭との協力体制の強化に努めた。</p> <p>⑨PTA総会や説明会の際などに保護者との就職相談を実施することができた。進路情報(就職先・求人数等)を充実させることができた。</p> <p>⑩就職指導について担任との連携を強化することで、生徒指導面での協力も密になってきた。また、求人票や過去の受験報告書をデジタル化することで、生徒自身でプリントアウトできるようにした。</p> <p>⑪能力に応じて、受験する検定を選択させている。また、授業で学んでいない検定でも自主学習や放課後の指導により、低学年から上級科目の取得ができた。</p>	<p>④⑤週末課題やプリント学習の中身を授業態度や生徒のニーズを踏まえて検討したい。</p> <p>⑥⑦⑧保護者の進路に対する意識の把握の必要性を感じた。</p> <p>⑨保護者相談では卒業生の動向や訪問企業の特徴などの説明をすることができた。</p> <p>⑩進路指導体制の充実により、少しずつ合理的になってきている。</p> <p>⑪ほぼ達成できた。</p>	<p>⑤継続できなかった生徒への呼びかけを粘り強く行う。</p> <p>⑨2年次までに就職か進学かを決定させ、早めに自己の適性や希望する職種を探るよう指導していく。</p> <p>⑩求人数が増加したが、競争倍率も高くなったりディスカッションなどが取り入れられたりしたため、様々な指導が必要となってきている。</p> <p>⑪1級検定の難易度が高くなり、対策を練り直す必要がある。また、1級に関しては授業だけではなく、家庭学習力の強化が必要である。</p>	<p>④～⑩保護者生徒双方の職業意識・進路意識の高揚に向けて、効果的な方策を追求していく。</p> <p>⑨生活習慣の改善や礼儀作法、学習態度等、学力と並行して就職に必要な生き方に関する指導を強化していきたい。</p> <p>⑩就職にも学力が必要であり、補習以外でも自ら学習するような習慣づくりを確立させたい。</p> <p>⑪授業に関連する検定に対しては、効果的な指導方法に改善していくつもりである。また、補習に頼らず、家庭での自己学習をさせる体制にしていきたい。</p>
-----------------------	---	---	--	---	---	---

重点課題	重点目標	評価指標と活動計画	自己評価		学校関係者の意見・評価	次年度への課題と改善方策
2 生徒指導の徹底及び保健安全・環境教育の充実	①基本的な生活習慣の確立 ②身だしなみ指導の徹底 ③規範意識の向上 ④安全教育の徹底 ⑤保健安全指導の充実	評価指標 ①自主的にあいさつができる生徒→80%以上 遅刻→1日あたり1人以下 ②全体での服装・頭髪検査実施回数→年12回以上 ③規範意識の向上を図るために立哨指導を実施する。 立哨指導日数→年120日以上 ④自転車車体検査実施→年3回以上、交通安全講話→年1回、交通安全教室→年4回、携帯電話安全教室→年1回、人の波運動→年2回 ⑤保健便りの発行→年8回、薬物乱用防止教室、救命講習会→各年1回	評価指標の達成度 ①自主的にあいさつができる生徒の割合→82%【平成26年度→71%】 ②全体での服装・頭髪検査実施回数→12回 ③交通ルール・マナー遵守の年間指導日数→114日 ④自転車車体検査実施→3回 交通安全講話→1回(牟岐署) 自動車学校入校指導→5回[57名]【平成26年度43名】 携帯電話安全教室→1回 人の波運動→2回 ⑤保健便りの発行→9回、食育だよりの発行→3回 薬物乱用防止教室→1回、救命講習会→2回(8月)	(評定) B	①～⑤各HR・各学年間において、一貫した指導体制(温度差を生じない)が築かれていない。 ①服装・頭髪指導は、これからも粘り強く指導する。説明を十分にし、保護者の理解や協力を得る。 ②生徒指導件数を減少させ、さらに規範意識を高める指導が必要である。 ⑤家庭連絡文書(保健便り・食育便りなど)の有効活用に努める。	①～⑤生徒指導にあつては、説明を十分に行うことで保護者の理解・協力を得るように努める。 ①～⑤地域の方々々の意見・要望を真摯に受け止め、その期待に応えられる学校であり続けるため、より一層の「生徒指導」の充実を推進する。
		活動計画 ①生徒会によるあいさつ運動の実施、始業時間の遵守や言葉づかい等、マナーについて指導を徹底させる。 ②違反者については、担任による常時指導(家庭連絡を含む)、学年や生徒課、保護者とも連携し、身だしなみの改善に努める。全校・学年集会などで服装・頭髪検査を実施し、学校全体として指導を行う。甚だしい場合は、保護者と連携して改善を図る。 ③交通ルール・マナーの遵守について、生徒会や教員の立哨指導(駅・交差点・校門前)を通じてマナーの大切さを教え、規範意識の向上に努める。 ④学校安全教育の徹底を図り、交通事故防止や携帯電話でのトラブル防止に努める。 ⑤疾病予防の大切さを学ばせ、健康教育を推進する。	活動計画の実施状況 ①校訓である「絆」・「学」・「夢」に沿った学校生活の満足度→87% ②違反者については、学年や生徒課、保護者とも連携しながら身だしなみの改善に努めた。全校・学年集会などで服装・頭髪検査を実施し、学校全体として指導を行った。甚だしい場合は、保護者と連携して改善させた。 地域保護者からの信頼度→84% ③教員の立哨指導(駅・交差点・校門前)を通じて交通ルール・マナーの大切さを教え、規範意識の向上に努めた。 ④学校安全教育の徹底を図り、交通事故防止に努めた。牟岐署と連携し、人の波運動を2回実施した。 ⑤疾病予防の大切さを学ばせ、健康教育や食育を推進した。	(所見) ①～⑤昨年度と比較すると、より一層の啓発指導が必要である。今後も指導を徹底し、満足度を向上させていかなければならない。		
重点課題	重点目標	評価指標と活動計画	自己評価		学校関係者の意見・評価	次年度への課題と改善方策
	①ボランティア活動の充実	評価指標 ①小・中・高連携ボランティア→年1回以上 特別支援学校との交流学習→年2回以上 自主的ボランティア活動(地域のボランティア、収集活動、	評価指標の達成度 ①小・中・高連携ボランティア→1回 特別支援学校との交流→3回 自主的ボランティア活動(地域のボランティア、収集活動、	総合評価 (評定)		

3 特別活動及び海部寮の充実	②学校行事の充実	<p>募金活動など)→1人年1回以上</p> <p>②地域ボランティアの方と生徒会役員のあいさつ運動→年10回以上</p> <p>海高祭・球技大会等各学校行事に対する生徒の満足度→80%以上</p> <p>③部活動顧問会議→年3回以上, 入部率→95%以上</p> <p>④舎監会議→年2回, 寮運営協議会→年1回, 寮生会議→年5回 寮生保護者会→年1回</p>	<p>募金活動など)→1人年1回以上51%</p> <p>②地域ボランティアの方と生徒会役員のあいさつ運動→11回</p> <p>海高祭・球技大会などの各学校行事に対する生徒の満足度→96%</p> <p>③部活動顧問会議→3回, 入部率→96%</p> <p>④舎監会議→1回, 寮運営協議会→0回, 寮生会議→3回 寮保護者会→1回</p>	B (所見)	①②③学校行事・部活動すべてに意欲的に取り組むことができた。これまでの活動定着と深化を図りたい。	①小・中・高連携ボランティア活動・特別支援学校との交流を継続する。自主的ボランティア活動への積極的参加の促進を図る。
	③部活動の活性化	<p>活動計画</p> <p>①豊かな心を育むとともに、地域社会や海部高校生の絆づくりをすすめる、ボランティア活動を積極的に行うことのできるリーダー性を養う。</p> <p>②「あいさつの励行」を積極的に取り組む。海高祭・球技大会等各学校行事の内容の充実を図る。</p> <p>③魅力ある学校づくりにむけ、技術・技能、仲間意識の向上に取り組む、昨年度以上の成績をあげる。</p> <p>④寮生自身が、自ら寮生活のマナーやルールを守り、自分たちで寮を運営するという自覚を持たせる。</p>	<p>活動計画の実施状況</p> <p>①月末大掃除時では、校内外の環境美化に努めた。</p> <p>②「挨拶の励行」を積極的に取り組んだ。海高祭・球技大会といった各学校行事の内容の充実を図った。</p> <p>③魅力ある学校づくりにむけ、技術・技能、仲間意識の向上に取り組んだ。第5回海部高校定期公演会を計画し、文化部が協力して実施することができた。(3/21実施)</p> <p>④寮生自身が、自ら寮生活のマナーやルールを守り、自分たちで寮を運営するという自覚を持たせた。</p>			
④円滑な寮の運営	<p>①豊かな心を育むとともに、地域社会や海部高校生の絆づくりをすすめる、ボランティア活動を積極的に行うことのできるリーダー性を養う。</p> <p>②「あいさつの励行」を積極的に取り組む。海高祭・球技大会等各学校行事の内容の充実を図る。</p> <p>③魅力ある学校づくりにむけ、技術・技能、仲間意識の向上に取り組む、昨年度以上の成績をあげる。</p> <p>④寮生自身が、自ら寮生活のマナーやルールを守り、自分たちで寮を運営するという自覚を持たせる。</p>	<p>①月末大掃除時では、校内外の環境美化に努めた。</p> <p>②「挨拶の励行」を積極的に取り組んだ。海高祭・球技大会といった各学校行事の内容の充実を図った。</p> <p>③魅力ある学校づくりにむけ、技術・技能、仲間意識の向上に取り組んだ。第5回海部高校定期公演会を計画し、文化部が協力して実施することができた。(3/21実施)</p> <p>④寮生自身が、自ら寮生活のマナーやルールを守り、自分たちで寮を運営するという自覚を持たせた。</p>	③部活動においては昨年度以上の成績を上げることができ、各部とも熱心に活動し、地道な努力を重ねている。よき伝統を築き上げつつある。	④日直・舎監・部顧問・寮生の保護者・寮運営協議会の方々が協力して寮の運営にあたり、寮生が住みやすい環境を整えることができた。	③顧問会議を定期的に開催し、教員間のコミュニケーションを図る。	④部活動を通して、豊かな心・規律ある態度等の育成を図る。魅力ある部活動とするため、外部講師を招いたり、講習会を実施し、活性化を図る。
4 人権教育の充実	①人権教育の推進	<p>評価指標</p> <p>①人権学習HR活動→年5回</p>				
②人権教育啓発行事の充実	<p>②-1人権教育啓発行事に対する生徒の満足度→75%以上 各人権教育啓発行事→保護者参加10名以上</p> <p>②-2人権教育教職員研修→年4回</p>	<p>②-1人権・道徳教育映画「ボクたちの交換日記」生徒満足度93%</p> <p>人権・道徳教育講演会「私と同和問題」講師 徳島県人権教育指導員 中原サヲ江氏 生徒満足度→95%</p> <p>②-2 人権教育教職員研修→4回</p>	②-1生徒人権教育推進委員会で作品を決め、生徒の興味関心に応じた映画会となるよう計画している。	②-2外部講師を招き、差別の実態から深く学び、課題を明らかにする研修を重ねている。また、時代	②-1各人権教育啓発行事を行うにあたって、事前学習を行う時間を設け、より効果的な機会にする必要がある。	②-2教師自身が自らの意識改革に迫るような研修内容・方法の工夫・改善をすすめる。

4 人権教育の充実		<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 5px;">活動計画</div> <p>①HR活動に人権学習を位置付け、生徒の人権意識(『安心・自信・自由』)の高揚を図り、人権問題解決の実践力を育成する。</p> <p>②-1人権・道徳教育映画会や人権・道徳教育講演会等各人権教育啓発行事の内容を充実させ、人権教育啓発行事を保護者に案内し、参加を求める。</p> <p>②-2徳島県人権教育基本方針の精神をふまえ、各種研究大会の研修成果等の共有を図る。</p>	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 5px;">活動計画の実施状況</div> <p>①文部科学省から出されている「人権教育の指導方法等の在り方について(第3次とりまとめ)実践編」をもとに、体験的参加型授業を展開し、一人ひとりの生徒が人権共存の考え方を理解できるように工夫した。</p> <p>②-1人権・道徳教育映画「ボクたちの交換日記」保護者参加申し込み4名(参加4名)。人権・道徳教育講演会「私と同和問題」保護者参加申し込み1名(参加1名)</p> <p>②-2徳島県人権教育研究大会4名参加、徳島県高等学校人権教育研究大会3名参加、四国地区人権教育研究大会5名参加、徳島県高等学校人権教育研究大会3名参加、人権教育フォーラム4名参加、海陽町分館巡回人権学習会9名参加、海陽町人権学習会13名参加</p>	<p>教育研修会を行い、社会の現状から深く学び、教育方法のあり方を探求した。</p> <p>②人権教育を実効あるものにするためには、学校・地域・家庭関係機関が密接な連携を図り、より効果的な人権教育が推進できる体制を築くことが重要となる。情報提供を行うことや、意見・要望を把握し、時代の変化に対応した人権教育を展開するよう努めなければならない。</p>	<p>の変化や指導要領改訂に対応できるよう研修を重ねている。</p> <p>①各HRで生徒の状況に応じた、学習を展開するため、資料やワークシートを各HR担任が工夫している。</p> <p>②-1保護者や地域の方々の参加は少ない。地域との連携を深めるためにも校内人権行事の参加を求めるとともに、教職員が地域の人権学習会に参加するなど、よりよい教育環境づくりをすすめている。</p> <p>②-2教職員研修の充実のため、各種研究大会に参加し、実践等を学んでいる。大会での学びは、校内研修で報告し、周知している。</p>	<p>①効果的な教育実践を創造するため、学習教材の開発や、モデルとなる活動を各HR担任が工夫している。</p> <p>②-1人権教育啓発行事の保護者・地域の方への案内方法を工夫する必要がある。(海陽町教育委員会や分館・公民館との連携を深める。)</p> <p>②-2すべての教職員が、校内以外の人権研修会に年1回以上参加することを目標とした。</p>
	重点課題	重点目標	評価指標と活動計画	自己評価	学校関係者の意見・評価	次年度への課題と改善方策
5 特別支援教育・教育相談の充実	<p>①特別支援教育の充実</p> <p>②教育相談の充実</p>	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 5px;">評価指標</div> <p>①校内研修会→年2回 特別支援・不登校対策委員会実施→年5回</p> <p>②教育相談週間→年3回、悩みアンケート→年3回 教育相談学年部会→年5回</p>	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 5px;">評価指標の達成度</div> <p>①校内研修会→2回 特別支援・不登校対策委員会実施→5回</p> <p>②教育相談週間→3回、悩みアンケート→3回 教育相談学年部会→5回</p>	<p>総合評価 (評定)</p> <p style="text-align: center; font-size: 2em;">B</p> <p>(所見)</p> <p>①②校内研修会を通して、「気になる生徒」についての教職員で共通理解し、対応を考えることができた。</p>	<p>①②「気になる生徒」については、教育相談学年部会から特別支援・不登校対策委員会へ上げ、教員間の共通理解を図ることができている。</p> <p>①-1非常勤講師や特別支援教育指導補助員を置き、習熟度別授業やチームティーチングを展開した。</p> <p>①-2校内研修「高等学校の授業におけるICTの活用の仕方」事例検討会の持ち方」を実施。</p>	<p>①②外部機関との連携を図りながら、更に支援体制を整える。次年度、新入生から学校生活サポートカードを作成し、保護者と連携し支援にあたる。</p> <p>①-1チームティーチングがよりいっそう効果的なものになるように工夫を行う。</p> <p>①-2授業のユニバーサル化を目指し、学習教材の工夫を行う。また、本校の実態に応じた研修を計画する。</p>
		<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 5px;">活動計画</div> <p>①習熟度別授業の展開やチームティーチングなどの実施、また、すべての生徒に分かりやすい授業のユニバーサル化に取り組む。</p> <p>②「悩みアンケート」の実施や、相談週間を設けることにより、</p>	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 5px;">活動計画の実施状況</div> <p>①特別支援・不登校対策委員会にかかる生徒については、概ね職員全員の共通理解を図ることができた。</p> <p>②悩みアンケートや相談週間で生徒の実態把握に努めた。</p>			

		教育相談活動を充実させる。				②教育相談週間では、気にならぬ生徒や相談希望のあった生徒に教育相談課員が話を聞く機会を設けている。	②-1生徒が気軽に相談に来られるような工夫をする必要がある。 ②-2悩みアンケートに記入されていることを面談などで詳しく把握し、早期に
6 開かれた学校づくり	①地域に根ざした運営	評価指標 ①PTA総会の出席率→30%以上 学校祭への参加→500人以上 ホームページアクセス→年40,000回以上 保護者等による学校評価アンケートの実施→年1回 海高だよりの発行→年3回	評価指標の達成度 ①PTA総会の出席率→24% 海高祭への参加→約500名 ホームページアクセス→年100,000回(4月1日～3月1日) 保護者等による学校評価アンケートの実施→1回 海高だよりを3回発行した。	総合評価 (評定) B (所見) ①PTA総会の出席率は、24%で目標数値には届かなかった。	①PTA総会の内容や案内方法について見直すことも必要である。ホームページアクセス数は昨年より大幅に増えた。	①保護者への情報公開の充実を図る。 ①今年度に引き続き、各種学校行事の案内や配布物等をホームページに掲載する。	
		活動計画 ①保護者・地域との連携協力、情報公開を充実させる。	活動計画の実施状況 ①情報公開については昨年以上に充実させることができた。PTA研修旅行の参加者は微増、PTAバザーの収益金は、提供品が激減したにもかかわらず昨年並みであった。				
7 危機管理体制の充実	①危機管理意識の育成	評価指標 ①-1防災避難訓練→年5回 小・中・高・地域合同避難訓練→年1回 ①-2防災講演会の実施→年1回 各種防災フォーラム・研修会などに参加	評価指標の達成度 ①-1防災津波避難訓練→4回 小・中・高・地域合同避難訓練→なし 町主催津波避難訓練→1回 ①-2防災講演会→2回 中・高校生を対象とした防災研修会に参加 防災教育の満足度→92% 【平成26年度91%】	総合評価 (評定) B (所見) ①様々な防災訓練や講演会などを通して、防災意識の持続と高揚を図り、防災リーダーとしての自覚を育てるとともに、地域や関係諸機関と連携することで、互いに助け合える「顔と顔が見える関係」を築くことができた。	①現在の取組を継続し、一人一人がさらに高い防災意識を持つよう深化させたい。	①訓練内容や参加する訓練・研修会などを精選し、より高い防災意識を養い、持続させる。	
		活動計画 ①防災・減災教育啓発に力を注ぎ、防災意識の持続と高揚を図るとともに、危機管理意識や将来における各地域の防災リーダーとしての自覚を促す。	活動計画の実施状況 ①南部県民局・海陽町役場やその他関係諸機関と連携して防災教育を推進し、実践力を身に付け、将来の防災リーダーとしての自覚を促すため校内では年4回、南部圏域防災訓練に参加するとともに、防災講演会は年2回実施した。また、今年度は4名の生徒が「防災士」の資格を取得することができた。				